

2005.8.31

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会

〒525- 草津市笠山八丁目4番25号
 0072 滋賀県立精神保健総合センター気付
 TEL/FAX 077(567) 5250
 http://www.mental-shiga.com
 E-mail smental@ex.biwa.ne.jp

滋賀県精神保健福祉協会だより

会演
 総特別講演

老人の、こころの問題

——ぽっくり信心の調査より——

滋賀県立精神保健総合センター 波多野和夫



神戸妙法寺の那須与一墓、源平合戦の英雄の墓を拜むとほっくり住生できるといふ。

当県に赴任するまでの十年間、ある小さな研究所で老人のこころの問題をテーマに、その「研究」とやらいうものをしておりました。人のこころというものはやっかいなもので、みな同じようなものだと言え、そのようでもあり、人ごとに違っているとさえ、それも正しいでしょう。親子がおり、夫婦がおり、兄弟がおり、親友がおり、それぞれの人のこころが分かるかと思われれば、(あのバカ、何を考えているのか)さっぱり分からないと答えざるを得ない程なのです。赤ちゃんの時の記憶はありませんが、少年や青年や中年のこころは、ワタクシにもそういう時代が、一応はありましたので、分からないというわけでもないかも知れません。しかしまだ経験したことのない老人のこころは難しい。

ある学者の言うことの受け売りですが、ものを知ることには二通りあるのだそうです。一つは外から見て



伊豆湯ヶ島の明徳寺、うすまき明王(便所の神)信仰、性器信仰、ほっくり信仰が結びついている。

するでしょう。そうすると滋賀県について非常に詳しくなります。これはものを外から見て知るといふ科学の態度です。これとは別に、例えば滋賀県に住んで、毎日毎日、この天気の下で暮らして、その住人と鼻をつき合わせて、喧嘩したり仲良くなったたりして、滋賀県を知るといふのは、中へ入って感じて知るといふことです。この知り方は正確でも客観的でもなく、気まぐれで人によってみな感じ方が違い、とうてい科学とはいえませんが、我々が生きているということそのものであって、そういう意味では人生で最も大切な知り方なのです。またある時、ある女の瞳の中に世界の全てを見てしまった。そういうことがワタクシにもあります

調べて知ること、もう一つは中へ入って感じて知ることです。滋賀県のことを知るには、滋賀県の地理、歴史、人文、産業、その他モロモロの知識とデータを勉強



高松衣掛のほっくりさん、お袋様を連れて参拝に行った。

た。今でも時々……。いやワタクシのこととはどうでもいいのですが、そういう時に、その女性の血糖値やコレステロール濃度を科学的に知ること、どれほどの意味があるでしょうか。科学的であること、ものごとを客観的に知るといふことが、それほど重要だとは、ワタクシには思えないのです。

こんなことを考えながら、老人のこころの問題としてぽっくり信心に興味を持ちました。国立歴史民俗学博物館の研究者に問い合わせてみました。が、ぽっくり信心についてはまだ十分な(科学的)研究がなされていないのだそうです。それならば、できるだけぽっくり寺の現場へ行ってみて、もし老人たちがそこにおれば一緒に信心してみようかと思いました。生来のうかれ気質で、諸国漫遊の旅好み。名山あればこれに登り、大河あればこれを(カヌーで)下る。神仏鎮まる所あればこれに手を合わせる。そういう暢気な旅の途中で、足を伸ばしたところがぽっくり寺だったわけでありませぬ。

このたびの総会特別講演では、そういう個人的な「ぽっくり」体験をお話しさせていただきます。このような機会を与えていただいた精神保健福祉協会に感謝します。

総会特別講演会に参加して

第九回総会の特別講演会では、滋賀県立精神保健総合センター所長の波多野和夫先生が「老人のこころの問題」をテーマに講演されました。このテーマは、先生が長年研究をされてこられた分野でもあるそうです。しかし、冒頭に「私は、少年・青年・中年のこころは経験してきたのでまだ分かりませんが、老人のこころは未だ経験していませんのでよく分かりませんし、むずかしいです。」と話されたことが印象的でした。

内容は専門的なむずかしい講演とは違い、老人のぼつくり信心で賑わう全国各地のぼつくり寺を写真で紹介され、先生自らの趣味でもある登山の体験談も併せて話されるという面白い内容でした。老人を持つ身として、大変興味深く聞かせて頂きました。また、先生曰く、「名山あればこれに登り大河あればこれを（カヌーで）下る。」という諸国漫遊の旅とその合間を使って参拝するぼつくり寺巡りには、先生の若々しさとパワーを感じさせられました。ぼつくり往生やぼけ封じ、長寿を祈願する神仏は、全国いたる所にあり、多くの老人の参拝があるようです。この講演を聴いて、こうしたぼつくり信心には、老人の「生きること」をより強く意識させるものがあるように感じました。それは、生きることへの強い気持ち（こころ）の表れであり、生きることの実態でもあるように思いました。

(こなんSSN 福島孝一)

第九回総会報告

平成十七年六月十二日（日）午後一時半から近江八幡市勤労者福祉センターにおいて、一五〇人の出席（内委任状出席者一二九人）のもと第九回総会が開催されました。

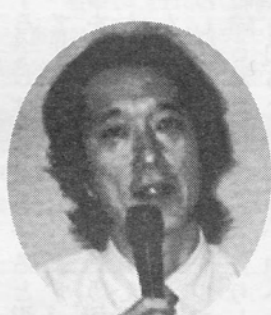
大川会長の挨拶に引き続き、議長に曾根博氏（滋賀県精神障害者家族会連合会理事・近江湖西会副会長）が選出されました。議事として理事会報告、平成十六年度事業報告・決算報告が行われ、続いて協会役員の改選がなされました。

続いて平成十七年度の活動方針・事業計画・予算が承認され、新しい体制での九年目の協会がスタートしました。

平成17年度事業計画 — 年間開催予定 —

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1 啓発・普及 | 2 研修・調査研究 |
| ○精神保健福祉啓発事業 | ○研修会 |
| ●「つどい」の開催 1回 | ●勉強会の開催 随時 |
| ○会報誌、パンフレット等の発行 | |
| ●啓発資料作成、配布 1～2回 | 3 団体育成 |
| ●会報誌の作成、配布 3回 | ○関係団体の支援、育成 |
| ●情報提供 随時 | ●患者会、家族会、断酒会、ボランティア団体などの活動支援 随時 |
| ○ホームページの運営、管理 | |
| ●情報提供 随時 | |

滋賀県精神神経科診療所協会主催講演会 「ケアマネジメンツと市町村との連携」



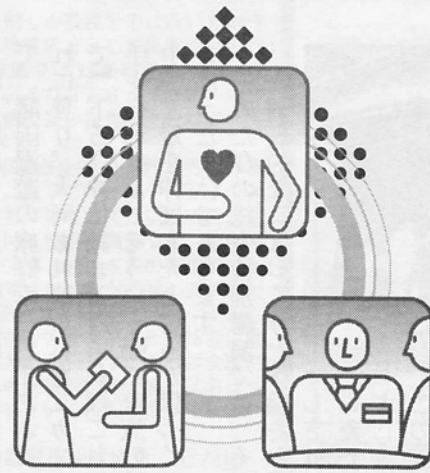
国立精神・神経センター精神保健研究所
伊藤 順一郎 先生

平成十六年七月二日、上記の講演会に参加しました。講師の伊藤先生は、国立精神として厚労省からケアマネジメンツに関する委託研究を受けた立場からお話されました。

障害者自立支援法の中では、ケアマネジメンツはソフト面でのポイントになる部分なわけですが、伊藤先生は、「精神障害の方の場合は状態に波があつて、いろいろニーズが変化していく中でも、延々と関わりながら支援していく伴走者（ケアマネージャー）が必要である」という観点から、ケアマネジメンツのあり方についての委託研究の報告を出して、厚労省にも意見を伝えておられるようでした。

ただ、厚労省の自立支援法を担当する部門では、精神障害の方のニーズについて十分な理解をされている方がおられない中で制度設計を短期間に急速に進められていき、本来のケアマネジメンツの趣旨が反映されないものになつていった経緯がよく分かりました。個人的な感想ですが、これを機会に現場サイドから積極的・具体的な提案を出していく必要を強く感じました。そうでないと、似たようなことが繰り返されるかもしれません。国任せにして反対したり嘆くのではなく、当事者のそばにいる私たちが当事者とともに、後手に回らずに何が必要なかを発言し、伝えていかなくてはいけない、と思いました。

(かのうクリニック 平木久代)



発達障害者支援特集 (二)

「発達障害者支援法」が成立し、本年四月一日から施行されました。本特集では、県内各地での発達障害者支援の先進的取り組みを紹介する予定です。前号では、湖南市健康福祉部社会福祉課・発達支援室の紹介を行いました。本号では滋賀県自閉症・発達障害支援センターいぶきを紹介します。(編集部)

滋賀県自閉症・発達障害支援センターいぶきを訪問して

昨年十二月に発達障害者支援法が可決され、自閉症・発達障害者支援センターについては、発達障害者支援法における「発達障害者支援センター」と位置づけられました。そこで、長浜市にある滋賀県自閉症・発達障害者支援センターいぶきを訪問し、センター長の井深允子さんにお話を伺いました。

第二湖北寮内に設置されているいぶきは、平成十四年十二月一日に県と国の事業として開始され、四名のスタッフで活動されています。いぶきでは、自閉症等の発達障害を持つ人やその家族への直接支援と、学校などの関係機関の調整などの間接支援を中心に行っておられます。本人が理解しやすいように環境を調整して、学校や家庭等でその人が生活している場所の教師や家族に助言するというコンサルテーション機能に重点を置いておられます。

その他には行政としての枠組み作りやシステム作りにも力を入れておられ、彦根市の特別支援教育のモデル事業にも平成十五年度から関わっておられるとのこと。また、年に三〜四回、県内において連絡協議会を開催し、学校、福祉、就労、親の団体等様々な関係者の方々に委員において、現状を把握したり、各現場からのニーズを掘り起こして今後のセンターとしての方向性を検討したりされているということです。

発達障害を持つ人たちが参加するより快適な社会を目指して、教育・医療・福祉等が連携して、幅広いサービスを実現できればと思います。今後の動きの中で、「いぶき」がより中核的な役割を担っていった下さることを期待しています。

(NPO法人サタデーピア 藤井美悠紀)

今後の特別支援教育の在り方について (最終報告)

H15・3より抜粋

特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。

- ①「個別の教育支援計画」(多様なニーズに適切に対応する仕組み)の策定、実施、評価を行う。
- ②特別支援教育コーディネーター(教育的支援を行う人・機関を連絡調整するキーパーソン)を学校に置く。
- ③広域特別支援連携協議会等(質の高い教育支援を支えるネットワーク)を設け、各地域の連携協力体制を支援する。

第6回 日本精神神経科診療所協会 チーム医療・地域リハビリテーション研修会

と き：2005.11.12 (土) ~ 11.13 (日)
と ころ：ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)

プログラム.....1日目

- 11月12日(土) 14:00~18:00
- 連続講演会「コミュニティケアにおけるさまざまな連携」
 - (1)「家族との連携~家族療法のもの見方から」
講師 榎林理一郎 湖南クリニック院長
 - (2)「認知症ネットワーク」
講師 藤本直規 藤本クリニック院長
 - (3)「発達障害支援ネットワーク」
講師 十一元三 京都大学医学部教授
 - 交流会(懇親会) 18:30~20:30

参加費：医師10,000円、コメディカルスタッフなど5,000円。
事務局：医療法人 南彦根クリニック
〒522-0054 彦根市西今町138
(TEL: 0749-24-7808 FAX: 0749-24-7807)

メインテーマ：「障害福祉とメンタルヘルス」

プログラム.....2日目

- 11月13日(日)
- 分科会 9:30~12:00
 - (1)「ケアマネジメント~市町村との連携」
司会 原敬造(宮城)、平木久代(滋賀)
 - (2)「リハビリテーションとしてのデイケア」
司会 窪田彰(東京)、坂本暢典(滋賀)
 - (3)「アウトリーチ活動~就労支援・訪問看護」
司会 三家英明(大阪)、佐藤啓二(滋賀)
 - (4)「診療所における心理教育」
ワークショップ 後藤雅博 新潟大学医学部教授
司会 穂積登(東京)、上ノ山真佐子(滋賀)
 - 講演とシンポジウム 13:00~16:00
 - ◇講演 13:00~14:00
「変わる障害福祉施策と精神科医療」
講師 北川博一氏(厚生労働省元企画官)
 - ◇シンポジウム 14:00~16:00 司会 上ノ山一寛(滋賀)
 - ◇シンポジスト
北川博一(元企画官)、後藤雅博(新潟大)、原敬造(宮城)、窪田彰(東京)、三家英明(大阪)

伝言板

第4回 笑ってメンヘル総会と集い

日時…平成17年10月2日(日) 午後2:00~4:30
 場所…南彦根クリニックデイケア室
 内容…第一部;午後2:00~3:00
 漫才[サタデー、XXなど] マジック[ジョニー久保田]
 第二部;午後3:00~4:30
 講演 「すべての人に笑いの制作を」 (会費)
 講師 福井直秀先生(京都外国語大学教授) (300円)
 問合せ…笑ってメンヘル滋賀事務局(南彦根クリニック内)
 TEL:0749-24-7808

精神保健福祉ボランティア養成講座

水口保健所主催
 日時…平成17年10月18日(火)、11月1日(火)、12月6日(火)
 いずれも13:30~16:00
 以上の3日間に加えて施設実習(日程未定)が1日あります。受講無料。
 会場…ワークステーション虹(湖南市大池町10-1)
 対象…甲賀市・湖南市にお住まいの方
 申込み…地域生活支援センター このゆびとまれ
 問合せ TEL 0748-75-8949(火~土の10時~18時)
 FAX 0748-75-8950 9/30(金)までに。先着30名。

滋賀県精神障害者作業所連絡会主催 学習会

日時…平成17年10月30日(日) 13:30~16:30(13時~受付)
 場所…藤樹の里ふれあいセンター2階(高島市安曇川町中89 JR安曇川駅5分)
 参加費…100円(災害義援金として寄付されます) ※申込み不要
 問合せ…藤樹工房 TEL0740-28-1822 運業の家共同作業所 TEL077-592-0185
 ①近江湖西会(家族会)の思いと活動の報告
 ②ぼちぼちクラブ代表 山口博之氏のお話「自分で生きる人生でありたい」
 ③参加者でフリートーク

こころの会主催 ピアカウンセラー講座

日時…平成17年11月3日(祝) 10:30~15:00 (受講無料)
 場所…県立男女共同参画センター 研修室C(JR近江八幡駅南口10分)
 講師…花園大学 三田優子助教授
 ※講座開講のための費用が不足しています。カンパのご協力をお願いします。
 郵便振込口座 00950-4-132631 こころの会
 以上 申込み・問合せ…こころの会事務局 代表 吉澤康雄 TEL/FAX 0748-52-2918

こころの会 例会

日時…平成17年11月13日(日) 13:30~15:30
 場所…県立男女共同参画センター 研修室C(JR近江八幡駅南口10分)
 ※こころの会では会報「たんぼぼ」の発送をお手伝いいただける方を募集しています。2ヶ月に1回、八日市保健所にて2時間程度です。

精神保健福祉サービス勉強会

精神保健福祉協会 調査研究部会主催
 日時…平成17年11月20日(日) 13:00~15:00
 場所…能登川町立総合健康福祉センター なごみ(JR能登川駅東口徒歩5分)
 内容…世一市郎先生(精神科医)と保健師による
 こころの病気と福祉のお話(参加無料)
 問合せ…精神保健福祉協会 事務局 TEL/FAX 077-567-5250

「夜回り先生」水谷修氏 講演会

出合いの家主催 ~子どもたちの未来のために~
 日時…平成17年11月27日(日) 10:00~
 場所…野洲高等学校体育館(JR野洲南口15分)
 駐車場に限りがあります。お車のご来場はご遠慮ください。
 ※入場無料。整理券(10/15から発行)が必要です。定員800名
 問合せ…出合いの家 TEL/FAX 077-586-2487

精神保健福祉協会主催「こころの健康フェア '06」(仮題)

日時…平成18年1月15日(日) 10:00~16:00(予定) 場所…大津市民会館小ホール
 内容…講演会及びステージ発表・作品展示 問合せ…精神保健福祉協会 事務局 TEL/FAX 077-567-5250

編集後記

◆郵政民営化法案否決の結果、8月8日衆議院解散となり、そのあおりを受けて障害者自立支援法案も廃案となりました。予算関連法案のためこのままでは170億円の穴が開くという厚労省では困惑しています。しかしこんな重要な法案が国会審議以前に予算化されてしまっているということ自体が不思議です。

◆障害者自立支援法案をめぐる論議のなかで、32条適用者の1~2割しか課税世帯はないという根拠不明の資料が提出されました。(社会保障審議会資料)32条を救済政策として位置づけるために無理に作られた資料のようです。少なくとも平成16年度の滋賀県では32条適用者の43%は被用者保険本人または家族であり、実態と大きくかけ離れています。また「重度かつ継続」の対象疾患を時代がかった3病名に制限するとしていますが、今日の疾病構造の変化に十分対応していません。病名による対象制限は無用な偏見をおおる恐れがあります。

◆今年6月には同法案の成立を前提として、障害程度区分認定試行事業が全国61カ所で行われました。この試行事業は介護保険のやり方をそのまま踏襲しています。コンピューターが行う一次判定106項目のうち、79項目は介護保険の項目と変わらず、精神障害に特有の項目は8項目だけで、精神障害の程度を反映しません。この施行事業の前に行われた同じ様式の調査でも、精神障害者に対する一次判定の結果は、実際にホームヘルプを利用している8人中、6人が非該当になったようです。(同審議会資料)それにもかかわらず今回の施行事業をかなり強引に推し進めたところに、介護保険で作られたロジックは何としても崩さないという強い意志を感じます。

◆滋賀県では同法案の成立の如何にかかわらず、本年8月から、精神障害者手帳2級所持者に関しては32条の自己負担分補助を県独自の精神保健福祉施策として実施しています。これは全国的にも先進的な取り組みで大きく評価されるべきことと考えます。国の政策が自立支援とは名ばかりの迷走を続ける中で、このような形で地方からの明確な意思を示していくことが重要ではないかと思えます。

(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山)



会員数

平成17年8月31日現在

一般会員	個人会員	260名
	団体会員	39団体
賛助会員	個人会員	12名
	団体会員	11団体